

## 成果報告書

氏名	畑佐一味
所属	パデュー大学
招聘回（招聘期間）	2009年10月1日～2010年3月30日
招聘研究テーマ	落語の小噺を利用した日本語および日本文化教育の評価と支援システムの構築
研究目的	日本の伝統文化である落語の小噺の実践を授業に取り入れ、言語の四技能を上達させるとともに体験を通じた日本文化理解を促進する。

### 研究概要：

お茶の水女子大の上級日本語クラスの講師の協力の下、同校の留学生12名が小噺活動に参加した。活動は以下の日程で実施された。

- 10月20日 左龍師を招いて、落語の紹介
- 10月27日 小噺の紹介と選択活動の開始
- 11月3日 小噺の選択と練習一回目
- 11月10日 さん喬師を招いて小噺の練習二回目、その後、さん喬師の落語一席
- 11月17日 小噺の練習三回目
- 11月24日 左龍師を招いて小噺の練習四回目
- 12月1日 落語会会場で練習
- 12月3日 落語会会場でリハーサル（さん喬師、左龍師、二楽師）
- 12月4日 落語会本番
- 12月8日 感想文執筆（添付資料参照）

学生の変化を記録するため、各授業風景および落語会もすべてビデオ録画した。1月からはビデオ映像の編集作業を行い、それを「日本語学習者による落語と小噺プロジェクト」のページに融合する作業を進めた。

URLを以下に記す。<http://tell.fl.purdue.edu/hatasa/rakugo/rakugobystudents.html>

落語会終了後、入場者から感想を聞くためのアンケートを実施した。（添付資料参照）

### 展望：

今回の研究活動を通して、アジア人の学生達も小噺を受け入れ、楽しみながら積極的に練習し、上達していくことが確認された。アジア人が持つ「恥ずかしさ」は初期段階では顕著に見られたが、徐々に解消され本番では全員楽しんでそれぞれの小噺を演じた。練習が自信に繋がっていったことと、本番で受けたいという気持ちが強くなっていったことがこの結果を生んだと思われる。それは活動後のアンケートでも明白に現れていた。彼らの練習風景の映像をウェブページに組み込んで、現在のサイトの内容を充実させることで、他校の日本語教員が同様の活動を落語家の支援なしで実現できるようにしていく計画である。事実、落語会の後で、数名の大学教員から今回の活動を実施したいという要望があった